

衆議院環境委員会ニュース

平成 21.6.26 第 171 回国会第 9 号

6 月 26 日（金）第 9 回の委員会が開かれました。

1 環境の基本施策に関する件

- ・第 11 回日中韓三カ国環境大臣会合出席のための出張の結果について、斉藤環境大臣から報告を聴取しました。
- ・斉藤環境大臣、吉野環境副大臣、古川環境大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

木 挽 司君（自民）

- ・途上国における森林火災を防止することにより CO2 排出削減につながると考えられる中で、災害監視のための国際プロジェクトである「センチネル・アジア」の取組について、どのように評価しているか。
- ・動物愛護管理に関連する地方交付税の自治体ごとの使途について、環境省が実施している調査・集計の進捗状況及びその結果について伺いたい。また、同交付税を利用していない自治体に対し利用するよう指導することは可能か伺いたい。
- ・動物収容施設内の温度、衛生面等に関する明確な基準を策定する必要性及び同施設へ何度も捨てに来るリピーター問題のための方策を検討する必要があると考えるが、これらに対する見解を伺いたい。

岩 國 哲 人君（民主）

- ・今月 10 日に麻生内閣総理大臣が表明した、我が国の温室効果ガスを 2005 年比で 15%削減するという中期目標で、世界の専門家や先進諸国の理解を得ることができると大臣は考えているか。
- ・我が国のライフスタイルにおいて、大量の自動販売機設置によるエネルギーの無駄、大量の食品ロスによる食料の無駄、サマータイムを導入しないことによる時間の無駄、という 3 つの無駄遣いは恥ずべきことである。自動販売機は、我が国で人口当たり何台設置されているのか。また、サマータイムを実施しないことによる時間及びエネルギーの無駄はどの程度生じているか。
- ・我が国の環境 N G O 等民間団体の中には不適切な普及啓発活動を行っていると思われるものもあるが、そのような団体に対し、行政指導等を行っているか。

吉 田 泉君（民主）

- ・先日テレビで、海岸に流れ着いた大量のごみを回収するため、海岸漂着物の処理等に取り組む民間団体の協力を得ながら、漂着ごみを回収している地元住民等の取組が報道された。このような民間団体や実施される回収活動等に対する公的助成制度はあるか。
- ・どの程度の長さの海岸線に、どの程度の量の海岸漂着物が漂着しているのか。また、生活系及び事業系の割合、国内由来及び海外由来の割合等、海岸漂着物の実態はどのようになっているか。
- ・毎冬、大量のポリタンクや医療廃棄物等が海外由来の海岸漂着物として漂着する等の問題が発生しているが、このような現状を踏まえた外交交渉や国際協力の進展状況はどうなっているか。

村 井 宗 明君（民主）

- ・中部山岳国立公園内の富山県立山町の天然林の中に整備されている道路について、沿道の両脇 10m にわたって除伐を行うとする計画書が提出された。この計画を実際に行う場合には、環境アセスメントに近い徹底的な事前調査を行う必要があると考えるが、いかがか。
- ・我が国の京都議定書第一約束期間（2008～2012 年）における温室効果ガスの削減目標達成の見通し及び達成のための具体策はどうなっているか。
- ・「太陽光発電を現在の 20 倍とする」という麻生内閣総理大臣の発言について、「現在」とはいつの時点を指しているか。また、「20 倍とする」とは具体的にどれくらいの導入量となり、その期限はいつまでか。

古 屋 範 子君（公明）

- ・エコポイント制度について、企業等から、取得したエコポイントを環境団体や環境事業へ寄付したいとの要望もあるが、そのような制度を設けることができるか。
- ・野生生物に対する、高病原性鳥インフルエンザウイルス対策の取組強化方針について伺いたい。

・複数の省庁の所掌にわたる子どもの健康と環境に関する問題に取り組むため、「子ども環境健康推進法」（仮

称）など省庁の枠を超えた総合的な法律の制定を検討すべきと考えるが、大臣の見解を伺いたい。